

# The Kamenori Community かめのりコミュニティ

公益財団法人 かめのり財団は、日本とアジア・オセアニアの若い世代の交流を通じて、  
未来にわたって各国との友好関係と相互理解を促進するとともに、  
その架け橋となるグローバル・リーダーの育成を目的に事業を行っています。

 公益財団法人  
**かめのり財団**  
Kamenori The Kamenori Foundation

2014年3月 No.15

かめのりフォーラム 2014 開催



## 今号の内容

- ◇高校生短期交流プログラム  
韓国・中国の高校生が日本で異文化体験
- ◇かめのりフォーラム 2014  
第7回かめのり賞表彰式  
体験発表  
ゲストスピーチ  
かめのりセッション
- ◇かめのり地球青少年サミットジャパン 2013
- ◇第5回 中学生交流プログラム(受入)  
ベトナム中学生 訪日研修

## 高校生短期交流プログラム

### 韓国・中国の高校生が日本で異文化体験

公益財団法人 YFU 日本国際交流財団の実施により、1月に韓国・中国からそれぞれ5名の高校生が来日しました。

「自分の目で見て日本を理解したい」「かならずちがいをを見つける!」「ホストマザーから日本の料理を学びたい」「可能な限りたくさんの部活動に参加したい」などそれぞれの思いを胸に抱きながら日本での生活をスタートさせた受入生たち。約1ヵ月間、ホストファミリーとの生活や高校通学を通して、日本の習慣や生活様式、文化や言葉を学び、同世代と交流し、異文化への

理解を深めると同時に日本の“ナマ”の生活を体験しました。

週末はホストファミリーと買い物や観光に出かけ、学校ではクラスの一員として授業に出席し、部活動にも参加しました。放課後は、友だちとおしゃべりすることが日本語の勉強にもなり、楽しく有意義な時間を過ごしました。

今後は、出会った人々との交流を続け、自身で見て感じた日本を周囲の人々に伝えていってほしいと思います。



韓国からの受入生



中国からの受入生

## かめのりフォーラム 2014

2014年1月10日(金)に、アルカディア市ヶ谷(東京都千代田区)にて「かめのりフォーラム2014」を開催しました。第一部では、第7回かめのり賞表彰式、体験発表とゲストスピーチを、第二部では、奨学生全員の紹介と懇親会を行い、ご来場いただいた多くの関係者と奨学生が交流を深める貴重な機会となりました。

翌1月11日には、奨学生が留学の体験を振り返るかめのりセッションを行い、お互いの体験を共有しました。

第一部では、来賓の国際交流基金の櫻井友行理事より、現在の海外の日本語教育の状況、特に、近年の東南アジアにおける中等教育レベルの学習者の著しい増加に対応すべく、弊社団との「にほんご人フォーラム」共催を始めとする新しい問題意識に基づく協働を通じて、未来の懸け橋となる人材育成に共に努力していきたいというお言葉をいただきました。また、第二部では、国際フレンドシップ協会の及川伊佐子事務局長から、今後も中学生の交流をともに考え、実施し、若い世代の友好促進に取り組んでいきたいとお話をいただきました。



来賓挨拶  
(独)国際交流基金  
理事 櫻井友行氏



来賓挨拶  
(一社)国際フレンドシップ協会  
事務局長 及川伊佐子氏



## ゲストスピーチ

### 「未来を拓くグローバル人材」

コモンズ投信株式会社 取締役会長  
公益財団法人日本国際交流センター 理事長  
渋澤 健氏



グローバル社会に不可欠なものとして共通言語と言える、「言葉」「数字」がある。それ以外にも、西洋東洋ともに2000年以上前に哲学が登場し、初めて人の移動が活発になったとも考えられる。今の時代にも重要な共通言語は「教養学」といえる。

アメリカの作家マーク・トウェインが“History doesn't repeat itself-but it rhymes”(歴史は同じように繰り返さない、しかし韻を踏む)といっている。日本の歴史を振り返ると、60年を一つのサイクルと考え、明治維新以降30年の破壊があり、30年の繁栄がある。現時点はバブル崩壊の1990年から破壊された

24年目とみることができるかも知れない。2020年から繁栄する時代が訪れるはずだが、その世代を担う40代の人たちが自らルールを敷くことをしないと、今後の日本は厳しくなる。渋澤栄一は「論語と算盤」を残したが、「論語」と「算盤」はそれぞれ、「道徳(倫理)」と「経済」にたとえ、車の両輪のように両方とも大切である。正しい道理の富がなければ永続することはなく、それが「持続性」である。

持続性は現状維持とは異なり、未来のためのことであり、手元にある資源(ヒト、カネ、モノ、時間)を再配分することである。高度成長期から変わらないものは今日よりも良い明日に

なってほしいと思うことである。資本主義を考えると、共感がないと成り立たない。共感と持続性はとても大切な要素である。

また、渋沢が「元気進行の急務」といい、当時の社会が元気がなくなっていることから、やってきた仕事を守るだけでなく一人ひとりが社会の当事者になりなさいといっている。今の時代にも同じことが言え、この言葉は「枠にとどまるな」ということだと思う。枠というのは自分の地域、業界、組織、常識、固定観念であるかもしれない、枠の中で生きるとは楽だが、小さくなる。グローバル人材は、枠の外と内の両方の視点を使うことが大切で、内の固定観念を取り除き多様な視点を持つことが重要である。





留学やプロジェクト参加の体験を発表

## 体験発表

高校生交換留学プログラムに参加した受入・派遣生と大学院生が留学体験を発表しました。派遣生は、時に周囲の反応や言動に不安になることもあったが、自分をしっかり持ち、それぞれの違いを感じ、周りの意見を聞くことが留学には大事だとの話が、受入生は、楽しいことや苦しいことの両方を経験し成長できたこと、多くの人々との出会いは財産であり今後も交流を続けたいと発表しました。大学院生は、学習者から研究者への転換期である大学院では、指導教員や周囲からの意見や助言が重要となる中、かめのり財団の夏の研修交流会で研究分野の異なる仲間との意見交換が大変勉強になったことや将来、自国と日本との架け橋となれるよう努めていきたいとの話がありました。さらに、国際交流基金との三つのプロジェクトで、学生スタッフおよび参加者として携わった大学生は、年齢層の異なる複数の事業にかかわり視野が広がり貴重な体験であったことに加え、世界へとつながる好奇心の扉を開けるか否かは自分次第で、その努力が経験の蓄積となり、相手のことを理解する共感性にも結び付くのではないかと発表がありました。

## かめのりセッション

高校生は、受入と派遣に分かれ、お互いの留学体験を共有しました。受入生は、学校で所属した部活動のこと、初めて見た雪に感動したこと、これから自国と日本との交流を広げていきたいとの話があり、派遣生は、メディアを通してではなく、実際に訪ねてその国を自分の肌で感じる大切であることや今後日本の同世代が他のアジアの国への関心を高められるような役割をしたいとの話がありました。大学院生のパネルディスカッションでは、留学生の先輩として高校生に対して、大学院留学の経緯や大学の選び方のポイントに加え、国家間で様々な問題はあがるが、民間レベルでの交流を続け、相手の気持ちを考えながら行動することや多角的に物事を見ることが大切であるとのメッセージを伝えました。

かめのりセッションでの様子  
康本評議員や西川常務理事も  
奨学生の話を傾けました。



## かめのり地球青少年サミットジャパン 2013

11月1日(金)から4日間、独立行政法人国際交流基金関西国際センター(大阪府)との共催によりかめのり地球青少年サミットジャパン2013を開催しました。香港中文大学(香港)とタマサート大学(タイ)および留学生を含む様々な日本の大学の大学生27名が集まり、交流を深めつつ、「アジアの将来に向けた課題と展望」のテーマのもと、今後のアジアの抱える大きな諸問題について議論しました。

### 「アジアの大学生が熱い討論」

報告：かめのり財団 学生スタッフ(同志社大学) 竹本 咲良

サミット初日、関西学院大学の水戸考道教授は「ポスト・グローバリゼーション時代におけるアジアの発展」と題した講演をされました。多数の人やモノや情報の移動が迅速化するアジアが直面する問題の解決に向けて、良質な能力や知識を持ち合わせた人々が国や地域を超えた協力体制をしいていく必要がある、と述べられました。さらに、関西学院大学の望月康恵教授は、「人間の安全保障」という概念を、多様な言語や宗教や文化に富むアジアで発展させることで、国際社会において先駆的な存在となりうることを示されました。しかし、そのような積極かつ理想的な社会を形成することは難しく、複雑な問題が多々あります。たとえば、タマサート大学のウィトゴウィットテン・トライテープ先生はアジアに広がる環境汚染の深刻さ、そして香港中文大学のスティーブ・ナギ先生はアジアが政治経済的に分裂し、協力体制をしていくことの困難さを参加者にわかりやすく教えて下さいました。

揺れ動くアジアにある諸問題の解決策を練るために、参加者は教育・環境・政治社会・経済ビジネスと4つのグループに分かれて研究発表の準備を行いました。それぞれテーマに沿った「課題」を設定し、議論を展開していく中で価値観がぶつかり合い、互いに理解し合えずトラブルが発生したグループもありました。それでも長時間対話をし続け、「課題」解決策をひとつにまとめて発表した結果、審査員と多くの聴衆が非常に高い評価をした研究発表会となりました。確かに、国や文化の異なる人々との協力や共同作業は時間がかかります。しかし、互いに認め合い、能力と知識を共有しながら「課題」に立ち向かうサミット参加者の小さな協働の積み重ねが、アジアの多大な発展へと繋がっていくのだらうと思いました。



### 「プレ日本語講座を実施して」

国際交流基金関西国際センター  
日本語教育専門員主任  
三浦 多佳史 先生

“かめのり地球青少年サミットジャパン2013”が開催される前に、香港とタイから来た学生だけで、日本語でいろいろな課題について発表する機会を持ちました。関西国際センターは日本語の研修施設なので、ここに来る研修参加者の目的は日本語の学習です。しかし、今回の香港とタイの学生たちは、サミットに参加して日本の大学生と地球規模の課題について討論することが目的になります。大学での専門も、日本語だけでなく電子工学や英語、日本研究などいろいろで、課題に対する高い意識を持っています。香港の学生はみな一様におしゃべりで積極的なので、わいわいがやがやと準備が進みました。一方、タイの学生は静かですが、淡々と、お互いに助け合っ、こちらも順調に進みました。発表では、どちらのグループも日本人の聴衆の前で、自分のことばで考えを主張することが出来ました。質問にもわかりやすい日本語で答えて、聴いている人たちをうならせました。翌日からのサミットでは、日本語で考えたこの日までの準備が、きっと大きな自信になったと思います。彼らの笑顔からそう感じる事が出来ました。

①水戸考道教授の講演 ②多くの聴衆の前で研究発表  
③国籍、年齢を超えて絆を深めました ④研究発表会を終えて 来賓や審査委員の方々と ⑤プレ日本語講座 日本語でプレゼンテーション



## 第7回かめのり賞表彰式



選考委員会にて、9つ団体と1名の個人の方の授賞が決定し、正賞の楯と副賞の活動奨励金を贈呈しました。選考にあたり、高く評価された点は次のとおりです。

- ①これまでの活動歴、活動内容とその成果
- ②活動自体に独自性を持ち、他にない取組みをしていること
- ③他団体との有機的な連携や協働、地域やボランティアの人々と共に活動し、継続的に自立、発展出来るような仕組みを作っていること
- ④その活動が社会の必要性に合致し、将来を見据えた事業展開を考えていること

さらに、今回は、アジアを中心とした活動が、青少年を主眼とした交流や人材育成であるか、また支援する側と支援先が直接交流する活動をしているかという点にも着目し、選考しました。

### 第7回かめのり賞 表彰者(敬称略)



#### 特定非営利活動法人 アクション

生まれた国や家庭の経済事情による不平等の解消を目指し、フィリピンでの孤児院支援や職業訓練、日本の青少年に対する国際ボランティア体験や国際理解教育活動を通じて、国際協力と相互理解に多大な貢献。



#### 特定非営利活動法人 地球市民 ACT かながわ /TPAK

タイ・ミャンマー・インドの少数民族や農村部の子どもと女性の教育、健康、自立支援や日本の青少年の国際協力の担い手の育成活動を通じて、国際相互理解と地球市民社会の実現を目指し、多大な貢献。



#### 特定非営利活動法人 アジアの子どもたちの就学を支援する会

カンボジアで学校建設や井戸の寄贈、教員や生徒への支援を通じて、困窮した農村が抱える教育問題の改善活動や日本の大学生を派遣し情操教育を行い、交流を深め、国際協力と相互理解の促進に大きく貢献。



#### 特定非営利活動法人 てのひら・人身売買に立ち向かう会

「人身売買の起こらない社会」を目指し、アジアから日本で被害に遭った女性の日本語読み書き教室、その子どもへの支援と東京・神奈川の学校などへの啓発活動を通じて、様々な背景を持つ外国籍女性の課題解決に向け、多大な貢献。



#### アジアの留学生と交流する会

埼玉県西南部を中心に、アジアからの留学生への奨学金支援、料理会や留学生による講演会の活動を通じて、地域住民との密度の濃い交流を行い、長年、地域に根ざした異文化理解と友好関係の促進に多大な貢献。



#### 認定特定非営利活動法人 日本ネパール女性教育協会

ネパールの山村地域のすべての少女への小学校教育の普及を目的に、女性教員の養成、寮の設立・運営、卒業後の教員への支援活動や「教育里親システム」を通じて、国際協力と人材育成に大きく貢献。



#### 特定非営利活動法人 国際交流ハーティ港南台

国際交流と相互理解、外国人への情報提供を目的に、多言語医療問診票の制作、提供から始まり、フィリピンの極貧の子どもたちへの医療・教育支援や図書館建設を通じて、草の根で国際協力と多文化共生の地域づくりに大きく貢献。



#### 公益財団法人 PHD 協会

「共に生きる社会」を目指し、アジア・南太平洋地域からの専門技術を学ぶ研修生の招へい、研修後の支援を通じ、自立した村づくりと生活の向上を支援し、また日本との人的交流を行うことにより、平和と健康を担う人材育成に多大な貢献。



#### ステップ国際理解

神奈川県横浜市で、アジアを中心とする外国人講師と日本人アシスタントが小学校を訪問し、各国を紹介する活動を通じて、子どもたちの知識や世界を広げる発展学習と開発教育を推進し、地域に密着した国際理解教育に長年、大きく貢献。



#### 夏目 長門

口唇口蓋裂児とその家族の支援のため、東南アジアを中心に医師、看護師を派遣して無料診療の実施、病院建設や医療機材の寄贈、国内では偏見をなくす啓蒙活動を通じて、日本の医療技術移転を推進し、国際協力に大きく貢献。

## 第5回 中学生交流プログラム (受入)

ベトナム教育訓練省により選ばれたハノイのリ・トゥオン・キエット中学校とフエのグエン・チ・フォン中学校の日本語を学習する中学生各4名と引率教員2名、計10名が2013年11月10日から18日まで、一般社団法人国際フレンドシップ協会の実施による中学生交流プログラムに参加しました。

ベトナム中学生 訪日研修 報告：(一社)国際フレンドシップ協会 プログラムマネージャー 小林 雄一氏

来日後、日本事情オリエンテーションを受け、ベトナムとの違いに驚きと興味を示し、皆、積極的に日本語と英語で質問をしました。続いて駐日ベトナム社会主義共和国大使館を表敬訪問し、ド・バン・チュン参事官(教育と人材育成事務所長)よりお話を伺いました。「日本と貿易をしたい」と思い、日本語を勉強したところ、折しもベトナム戦争となり、ベトナムとしてアメリカ軍との銃撃戦も経験。戦争が終わり、日本語を再度独学し日本に留学、その後、大使館の職に就き、今こうして日越交流の仕事をしている」と。苦勞の末に今があるとお話にて、皆、日本語を頑張り、また日本に来ようと、思いを新たにしました。

楽しみにしていた中学校での交流では、クラス

見学、給食、交流と日本語と英語が飛び交う友だちづくりの1日となりました。ベトナムでは午前か午後だけの授業形態、昼食は自宅のため、皆でそろって「いただきます」、「ごちそうさま」の給食に驚きました。

都内の企業訪問では目を輝かせ説明を聞き、京都見学では、茶道と着付けも体験し、いよいよホームステイです。2泊3日で1人1家庭にお世話になり、各家庭が思い思いの計画でベトナム生を迎え入れてくださいました。学校と一緒に通ったり、買い物や博物館めぐり、食事作りなどなど。帰国日前日、ホストファミリーとともに笑顔で再集合したものの、すぐに「別れたくない」と全員が涙、日本に対するさらなる興味と友情で満ちた9日間でした。



着物を着て茶道体験



日本の中学生の前で自己紹介



京都にて友禪染体験



駐日ベトナム大使館表敬訪問



表敬訪問で自己紹介

## 2014年度 募集のご案内

※詳細は募集開始時にホームページにて発表

### 講演会開催団体

法政大学教授王敏(Wang Min) 理事による講演会の開催団体(高校、大学、国際交流団体など)を募集します。日本と中国の交流の歴史などを交えながら、「異文化理解の必要性」を主なテーマとする講演です。

### 国際交流事業助成

日本とアジア・オセアニアの若い世代の相互理解や友好関係を深めるための交流や架け橋となるグローバルリーダーの育成を目的とする事業に助成します。

### 第8回かめのり賞

日本とアジア・オセアニアの若い世代を中心とした相互理解・相互交流の促進や人材育成に草の根で貢献し、今後の活動が期待される個人または団体を顕彰します。

### 今後の予定

- 3月 【高校生長期】第8期生 受入生来日
- 4月 かめのり大学院留学アジア奨学生 新奨学生授与式・交流会  
国際交流事業助成 募集開始
- 6月 第8回かめのり賞 募集開始

≪ 編集後記 ≫

かめのりフォーラムの奨学生紹介で、「日本から自国に持って帰りたいものは？」の質問に受入生は、「剣道の竹刀、抹茶・納豆、部活動」のほかに「ホストファミリーと友だち」との回答。温かな人々に囲まれ、充実した留学生活を送ることができたのは、奨学生の留学にかかわり、支援して下さった多くの方々のおかげである。改めて感謝したい。(菊地)

発行人 / 西田 浩子、編集 / 菊地 佐智子、デザイン / イワブチサトシ (BUTI design)、印刷 / 佐伯印刷株式会社



日本とアジア・オセアニアの若い世代の交流を支援します！

公益財団法人 **かめのり財団** The Kamenori Foundation

〒102-0083 東京都千代田区麹町 5-5 共立麹町ビル 103

TEL : 03-3234-1694 FAX : 03-3234-1603

E-mail : info@kamenori.jp URL : http://www.kamenori.jp/